

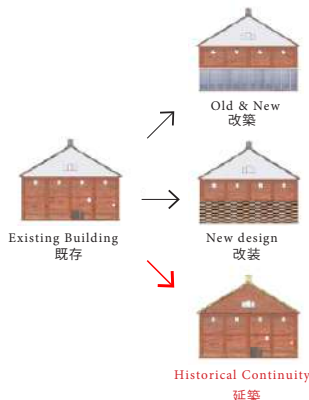


©Yoshitomo Nara, A to Z Memorial Dog, 2007

改修を改築や増築でもなく、延築によって過去と未来を繋ぐ。

CONCEPT DIAGRAM
コンセプトダイアグラム

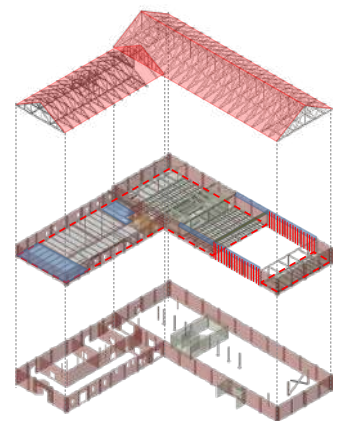
保存修復の技術による「延築」
欧州で見られる「保存修復」の技術、製作当時の技術や素材を研究し、既存の煉瓦壁の状態をチェックし、黒ずみや白化などの表層の状態や破損状態を読み解いて、高圧洗浄・磨きや解体煉瓦や再製作煉瓦による埋め戻しなどの修復技術を採用。
過去と対話しながら未来に向けた建築を思考し、既存の建物を修復・保存するだけでなく、煉瓦の新たな使い方を発掘し、新築や改築でもない「延築」という建築を編み出す術を模索しました。



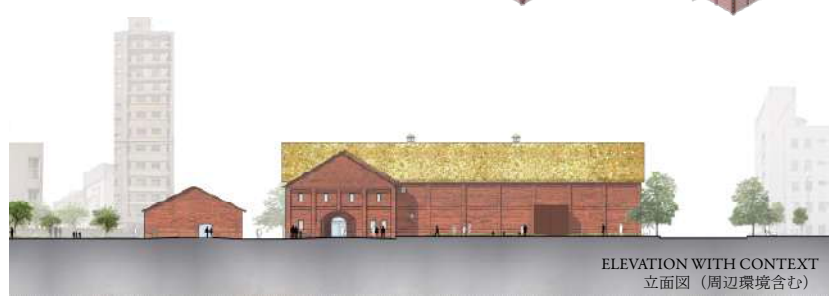
STRUCTURE DIAGRAM
構造設計ダイアグラム

既存煉瓦構造補強 PC鋼棒
耐震補強と既存煉瓦壁を無傷で保存する為に、煉瓦壁の高さ9mの上部から600mmピッチで直径36mmの穴を空け、そこにPC鋼線を差し込み、上部と下部の基礎で緊結し、煉瓦壁に串差す高精度技術の採用した工法により、煉瓦壁を内外無傷のまま残すことが可能となりました。

老朽化した屋根の解体、小屋組みの補強、水平軸を支えるコアの設置



市民に開かれた美術館
吉野町緑地内に隣接し、美術館棟とカフェ・ショップ棟から成る本プロジェクトは、地方での美術館のあり方を考え、市民との接点や場をどのように提供するかを模索しました。
歴史を刻んだ温かな煉瓦による建築が、爽やかな夏景色にも雪に埋もれる冬の風景にも存在することで、その時々々の姿が弘前の心象風景へと繋がるような建築を目指しました。



先人の精神を引き継ぎ「記憶の継承」によって未来をつくる、改修を改築や増築でもなく、延築によって過去と未来を繋ぐ。

明治時代に建てられた弘前の煉瓦倉庫を改修し現代アートの美術館をつくるプロジェクトです。弘前市吉野町の煉瓦倉庫群は、日本で最初のシードル(りんご酒)工場として長年この街の風景を支えてきました。厳しい雪国の中で、独自に煉瓦を開発してつくった煉瓦倉庫群は増築や改築を繰り返しながら、そのほとんどはすでに解体され時代とともに失われていました。

国内では近代文化遺産を保存だけでなく、現代文化として積極的に活用するような事例はまだ数少なく、大半は「古さ」を理由に取り壊されています。国内では煉瓦造りによる建築は二度とつくられないことのない貴重な建築の系譜であり、壊してはならない文化遺産でもあります。一方、古い建物の改修は直すことが目的ではありません。建物の歴史性や再現不可能性を検証し、その建築の尊厳と可能性を知ることから設計を始め、改築や改修ではなく、先人の記憶を未来へ引き継ぎ「記憶の継承」をコンセプトにしました。建物の改修設計を行うにあたり改築や改装ではない、修復保存の技術を用い、あらゆる設計箇所での煉瓦を増設、多用し、保存だけでなく研究と改良を重ねることを目指しました。長い時間を経て残る建物の時間軸を引き延ばす「延築」という考えです。また屋根はこの倉庫が日本初のシードル工場であったことを端緒にチタン製の菱葺によるシードルゴールドとすることにより文化施設として風景の創生を映し出します。内部空間においては、倉庫がもつ大らかな空間を最大限活かすように、既存の床を抜き、PC鋼線により耐震補強を行いながら、美術館としてサイトスペシフィックとタイムスペシフィックなコンセプトとしたアートと対峙する空間が設けられます。

建築設計 | Atelier Tsuyoshi Tane Architects
設計統括 | NITファシリティーズ/NITファシリティーズ東北(ミュージアム棟)
| スターツCAM(カフェ・ショップ棟)
構造設計 | 大林組/スターツCAM(ミュージアム棟)
| yasuhironakada STRUCTURE/スターツCAM(カフェ・ショップ棟)

設備設計 | 森村設計(ミュージアム棟)/スターツCAM(カフェ・ショップ棟)
照明設計 | 岡安泉照明設計事務所
工事施工 | スターツCAM/大林組/南建設共同企業体(ミュージアム棟)
| 西村組(カフェ・ショップ棟)